

消化器系疾患

科目責任者 入 澤 篤 志

学年・学期 6 学年

I. 前 文

本年度の「カテゴリー I : 消化器系疾患」で取り扱う内容は、食道・胃・小腸・大腸・肝臓・胆道・膵臓の主たる疾患について、その病態・診断・治療の重要事項を中心に講義を行います。各々、内科・外科の両面から理解を深める内容としました。

また、病理の理解を深めることも重要であり 1 枠を設けています。全体的に国家試験対策を念頭においた内容であり復習は必須です。

なお、本講義においても active learning が取り入れます。事前の配付資料を基に、しっかりと予習してくることを求めます。それにより、講義内容の理解がより深まります。

II. 担当教員

内科学（消化器）	（入 澤 篤 志）
第一外科学	（小 嶋 一 幸）
第二外科学	（窪 田 敬 一）
放射線医学	（楫 靖）
病理診断学	（石 田 和 之）
埼玉医療センター消化器内科	（玉 野 正 也）

III. 一般学修目標

講義や実習で履修した消化器病学の知識を整理し、成因、病態、検査、治療、予後などを総合的に理解して、医師国家試験に出題される一般問題、臨床問題に正答できるレベルの学力を修得する。

IV. 求められる事前学習、事後学習

事前に 3 年時の臓器別講義の資料に目を通し、知識を整理し、不明の項目は教科書や参考書で確認する。また、消化器領域に関する過去の一次卒業試験問題や医師国家試験問題などを参照し、知識を整理する。事前学習に 30 分、事後学習に 30 分は必要。

V. 授業計画及び方法

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者
1	7	7	水	3	胃十二指腸の外科治療（外科）（1）	第一外科学 小嶋一幸
2		7	水	6	炎症性腸疾患（内科）（1）	内科学（消化器） 富永圭一
3		8	木	1	食道の外科治療（外科）（1）	第一外科学 中島政信
4		8	木	2	上部消化管の良性疾患（内科）（1）	内科学（消化器） 入澤篤志
5		8	木	3	下部消化管の外科治療（外科）（1）	第二外科学 高木和俊
6		8	木	4	肝胆膵の画像診断（1）	放射線医学 楳 靖
7		8	木	5	ウイルス性感染・肝腫瘍（内科）（1）	内科学（消化器） 飯島 誠
8		8	木	6	自己免疫性・薬剤性・代謝性肝疾患（内科）（1）	埼玉・消化器内科 玉野正也
9		9	金	1	胆道疾患（内科）（1）	内科学（消化器） 入澤篤志
10		9	金	2	膵疾患（内科）（1）	内科学（消化器） 入澤篤志
11		9	金	3	肝疾患の外科治療（1）	第二外科学 窪田敬一
12		9	金	4	胆膵疾患の外科治療（1）	第二外科学 青木 琢
13		9	金	5	消化器疾患の病理（1）	病理診断学 石田和之
14		9	金	6	消化管腫瘍の診断と内視鏡治療（内科）（1）	内科学（消化器） 郷田 憲一

VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

Active learning形式をとりますが、事前配付資料に関する確認テストは行いません。最終的には、カテゴリー試験の成績をもって評価します。

VII. 医師国家試験出題基準における区分

必修-7-A-全項目

必修-7-E-全項目

必修-8-G, H-全項目

必修-9-F-①～③

必修-9-G, H, I, K, LO-全項目

必修-12-F-全項目

総論（Ⅲ 人体の正常構造と機能）-5-A～D-全項目

総論（Ⅴ 病院、病態生理）-6-A～C-全項目

総論（Ⅵ 症候）-5-A～K-全項目

総論（Ⅷ 検査）-2-C-全項目

総論（Ⅷ 検査）-2-E-全項目

総論（Ⅷ 検査）-6-A, I, L, M, N, O, Q-全項目

総論（Ⅷ 検査）-7-A-全項目

総論（Ⅷ 検査）-7-B-⑥～⑩

- 総論 (IX 治療) -2-F-⑤~⑨
- 総論 (IX 治療) -4-A, B, C-全項目
- 総論 (IX 治療) -5-A~D-全項目
- 総論 (IX 治療) -7-A-①~④, ⑩
- 総論 (IX 治療) -7-B-全項目
- 総論 (IX 治療) -8-A-全項目
- 総論 (IX 治療) -10-A-⑥⑬⑮⑫
- 総論 (IX 治療) -12-G
- 各論 (VI 消化器・腹壁・腹膜疾患) -1~11-全項目

VIII. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験問題の解答に関する解説をもってフィードバックする。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置くDP ○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	◎
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	◎
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料，情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	